

第11回「防潮堤を勉強する会」要旨

日時：2012年9月27日（木）16時から18時30分 場所 アーバン2F

1 講演 「地震津波の被害の歴史に学ぶ—災害サイクル」

講師 東北大学教授 大学院工学研究科 教授 今村文彦 氏

- ・災害はサイクルする。その中の平穏期の時に次の発災に対して備えるというのは大変難しい。復興から平穏期に向かう今の時期が、次の災害に対する予防を考え実施していく時期である。
- ・津波は湾の周期の長い短いによる共振現象によってその威力を増す。防波堤の役割は、波を防ぐだけでなく、周期を長くして勢いをゆるめ共振現象を抑える役割を果たしている。
- ・私たちが持っている価値、命の尊さ、財産はなかなか変えることはできない。地震、津波も変えられない。つまり自分の力で変えていくことのできる防災力を見ていかなければいけない。
- ・技術、人の整備、ルール、これらが揃って多重防御となる。地域によっての機能を見直し多重性を再確認する必要がある。
- ・防災に関してお祭りに重要な意味が込められている地区もある。改めて従来からの先祖のお祭りや行事の役割、意味合いをここできちんと認識し、それを継承しなければいけない。
- ・防災、減災、免災、この3つの観点から災害を捉えていく必要がある。

2 質疑からわかったこと

- ・津波の浸水高と被害とは比例しない。
- ・シミュレーションに用いられている数値は記録されているデータを精査して使用している。地形データも含まれている。
- ・防潮堤は一か所外すとそこから浸水し背後から他地域に回ってしまう危険性がある。
- ・子どもや孫の世代、将来のことを考えてまちを設計する必要がある。

<次回 第12回「防潮堤を勉強する会」> 10月3日（水）18時～ ワンテン大ホール

●テーマ：勉強会のまとめ「分かったことと課題 市長さんへの質問」